

政策分野7 スポーツ

※ 下線の箇所は第1次案からの変更箇所です。

～スポーツに親しむ機会に恵まれたまちをめざす～

基本方針

体育振興会や学校、競技団体、企業などの京都市域の各主体及びそれらを調整し、まとめる行政が一体となり、「だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支えあうまちづくり」を進める。そのことにより、市民一人一人がスポーツそのものを楽しむことはもちろん、健康や感動など市民生活に豊かさをもたらすとともに、環境、教育、観光、公共交通、経済など様々な分野の京都のまちづくりをより魅力あるものにする。

現状・課題

- 指定管理者制度(公の施設の管理運営に民間の能力を活用し、住民サービスの向上や経費の節減等を図るための制度)の導入により、効率的かつ利用者のニーズに応じた柔軟な施設運営が可能になった。
- 所管施設や設備の老朽化が進行しており、市民に満足していただける施設の供用や事業の展開が困難になる可能性がある。
- 生涯スポーツ、競技スポーツ、障害者スポーツなど、多様な利用者のニーズに応じた施設の提供がさらに必要である。
- 財政状況が厳しく、内陸都市であることから、活動用地の新たな確保が困難である。
- スポーツ施設設置に関し府市協調の促進が必要である。
- 西京極総合運動公園等で、市民がトップレベルのスポーツに身近にふれる機会が増えてきている。
- 新しい気風を受け入れやすい土壌をスポーツ振興にも生かすことができる。
- 全国に類のない市民スポーツ団体として組織される体育振興会は、地域におけるスポーツの普及・振興の大きな原動力となっている。
- ネーミングライツ(命名権)の導入をはじめ、市内企業による支援が進んでいる。
- 世代交代に伴い、「支える」スポーツの担い手である体育振興会、体育指導委員、体育協会の新たなかつ安定的な人材確保や育成支援が必要である。

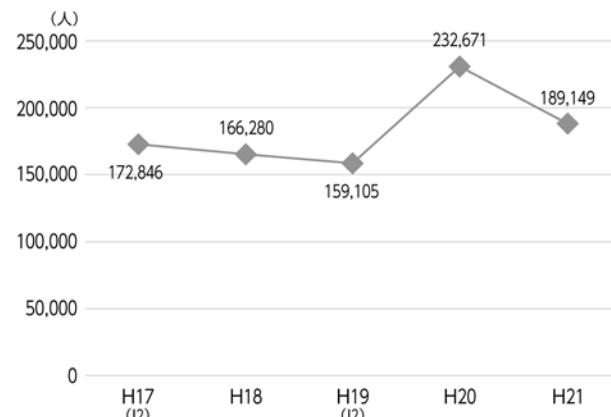
◆スポーツ施設(西京極総合運動公園)の稼働率は総体では横ばい傾向

(単位: %)

施設名	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
陸上競技場	27	28	25	27	30
補助競技場	46	37	45	39	38
野球場	46	38	54	54	56

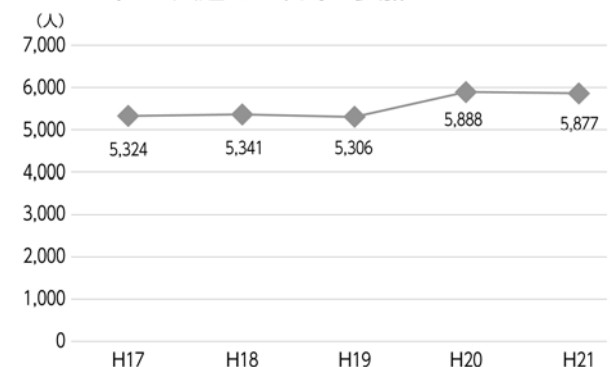
資料:京都市

◆プロスポーツイベント(京都サンガF.C.試合)の入場者数は平成20年に過去最高を記録



資料:京都サンガF.C.

◆市民スポーツフェスティバル(メインフェスティバル)には6,000人近くの市民が参加



資料:京都市

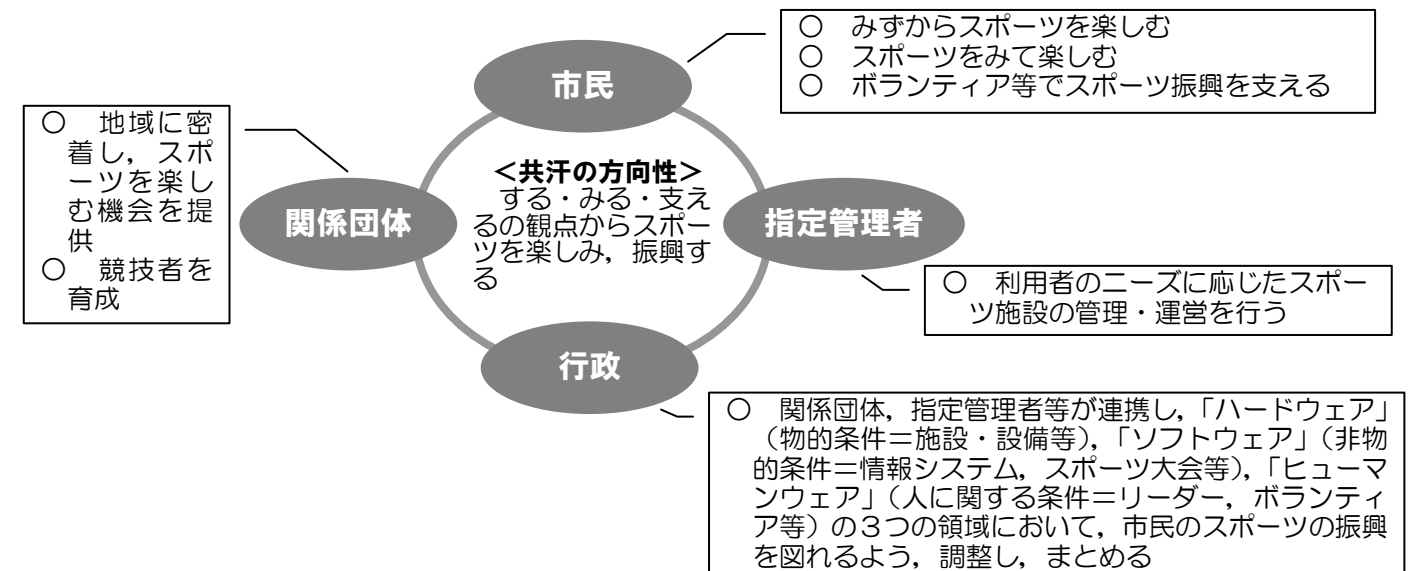
みんなをめざす10年後の姿

- それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツを楽しんでいる
市民のだれもが、それぞれの年齢や個性、環境に応じて、スポーツやレクリエーションを楽しめる機会の提供や施設整備により、スポーツやレクリエーションを楽しむことができている。
- トップレベルのスポーツに身近に触れられている
市民がプロスポーツをはじめ、トップレベルのスポーツに身近に触れることができている。
- 多様なスポーツ活動を支えあっている
体育振興会、体育指導委員、体育協会の新たな、安定的な人材確保や育成支援により、多様なスポーツ活動を支えあっている。

<参考>政策指標例

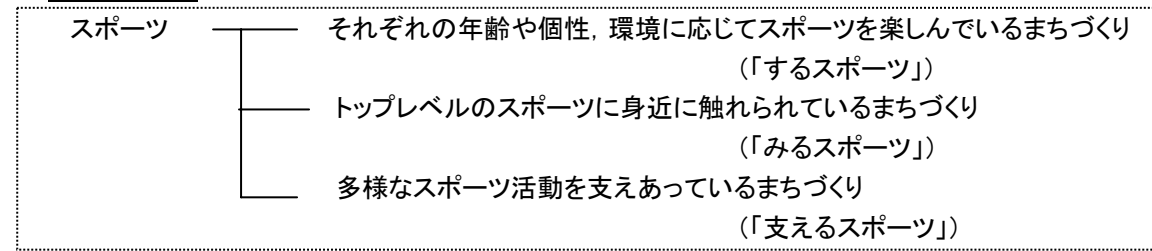
- ◆スポーツ施設(地域体育館)の利用件数 19,372件(H20) → 30,000件
- ◆プロスポーツ・全国規模大会の開催日数(延べ日数) 76日/年(H20) → 120日/年
- ◆スポーツ事業ボランティア参加者数(延べ人数) 1,457人(H21) → 3,000人

市民と行政の役割分担と共汗



推進施策

施策の体系



1 それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツを楽しんでいるまちづくり（「するスポーツ」）

（1）施設の効果的・効率的な整備

老朽化の著しい京都市のスポーツ施設・設備について、アセットマネジメント（施設の効率的な管理）により限られた施設の延命と有効活用を図る。また、太陽光発電やエネルギー効率の良い設備の導入等を積極的に図るとともに、施設のバリアフリー化など、ユニバーサルデザインの理念に沿った施設の在り方を追及し、人と環境にやさしいスポーツ施設となるよう改修・整備を進める。

（2）スポーツを自ら楽しむ機会の提供

体育振興会、学校、大学、競技団体等との連携により、新たなウォーキングコース・ジョギングコース、体操ひろばの設定、ニュースポーツの普及・振興の取組を強化することなどにより、市民が気軽に体を動かす機会の増加を図る。

また、施設の空き情報や予約案内等利用者のニーズに応じた情報提供を行う。

（3）スポーツ・レクリエーション活動を支える人材育成

スポーツの楽しみ方や健康に関する指導からアスリートの育成のための専門的な指導まで、市民のスポーツ・レクリエーション活動を支える人材の育成・活動支援を行う。

2 トップレベルのスポーツに身近に触れられているまちづくり（「みるスポーツ」）

（1）競技環境と観戦環境の充実

ビッグゲームの円滑な開催が可能となるよう、西京極諸施設（京都市体育館、野球場、陸上競技場兼球技場、アクアリーナ）の競技環境と観戦環境の充実を図るとともに、施設使用日程の早期確保、関連施設である伏見桃山城運動公園野球場、宝が池球技場等の充実、会場へのアクセス改善等に取り組む。

（2）ビッグゲームの誘致と総合スポーツイベントの開催

競技団体等と連携してビッグゲームの京都開催継続及び新規誘致に取り組むとともに、京都市を本拠とする地域密着型プロスポーツチームの振興に取り組む。

また、市民スポーツの振興はもとより、京都経済の活性化、京都ブランドの更なる向上を図るため、参加者、応援者、市民が一体となって楽しめるマラソンといった総合スポーツイベントを実施する。

（3）競技スポーツへの支援とその魅力の活用

ビッグゲーム開催に取り組む競技団体やプロスポーツチームの民間企業による支援の促進を図る。

また、子どもたちの憧れやアスリートの目標となる京都ゆかりのトップアスリートを顕彰するとともに、その力をスポーツ振興をはじめとする京都の発展に活かす取組を進める。

3 多様なスポーツ活動を支えあっているまちづくり（「支えるスポーツ」）

（1）だれもが利用しやすい施設の提供

市民のライフスタイル、生活時間の変化により多様化する要望に応えるため、施設の管理・運営を柔軟なものとし、良質なサービスが提供できるよう施設の指定管理者との連携を図る。

（2）スポーツを支える仕組みづくり

市民スポーツの振興に貢献のある個人・団体に対する表彰制度の充実に取り組むとともに、各種大会・スポーツイベントへの市民ボランティア募集や体育指導員制度の一層の充実に努める。

（3）スポーツを支える組織の人材の確保・育成

支えるスポーツの担い手であり市民スポーツの普及・振興に大きな役割を果たす体育振興会、市体育協会の新たなかつ安定的な人材確保や育成支援を進める。また、各種スポーツイベントを支える市民ボランティアの活躍を支援する。

関連する分野別計画

京都市市民スポーツ振興計画（平成23年度～32年度）